

県西地区保健医療福祉推進会議 第1回病床機能分化・連携ワーキンググループ 開催結果概要

- 1 日 時 令和元年8月5日(月) 19:00~21:00
- 2 場 所 おだわら総合医療福祉会館 4階ホール
- 3 参加者 医療機関 24名(18医療機関)
医師会、地域医療介護連携関係者、行政 12名
オブザーバー(市町) 8名
- 4 議題
 - (1) 「公的医療機関2025プラン」及び「2025年に向けた対応方針」の更新状況について
事務局より、更新状況について説明。
 - (2) 平成30年度病床機能報告結果(速報値)等について
事務局より、報告結果(速報値)について説明。
 - (3) 居宅や介護施設における在宅医療等の現状及び地域における医療・介護の連携体制の構築に係る課題について
事務局より、地域状況に係るデータについて資料説明後、地域の医療・介護連携関係者を交えた意見交換を行った。
 - (4) 県西地区保健医療福祉推進会議での協議予定事項について
 - ① 公的医療機関2025プランの検証について
 - ② 医療介護連携ネットワークの構築について
 - ③ 医師確保計画、外来医療計画について事務局より、各協議予定事項について説明。
 - (5) その他
- 5 主な意見等
 - (1) 「公的医療機関2025プラン」及び「2025年に向けた対応方針」の更新状況について
なし

(2) 平成 30 年度病床機能報告結果（速報値）等について

定量的基準に基づく試算結果として、急性期を急性期（一般形）と急性期（地域密着型）に分けた数値について意見交換。基準については、各地域での意見を踏まえて必要に応じて見直しを検討してほしい。

(3) 居宅や介護施設における在宅医療等の現状及び地域における医療・介護の連携体制の構築に係る課題について

- ・ 在宅療養のサポート体制の充実等を背景に、病院から自宅への転帰が増えており、さらなる連携の強化が必要。
- ・ 在宅で療養する患者・家族に対して、公的サービスに加えて、地域の人々の協力により生きる意欲を高め、生活の質を向上することが課題。
- ・ 地域住民に対して、医療機関に係る情報提供や医療に係る相談への対応を行っているほか、地域の関係者による研修会・検討会等が開催され、顔の見える関係づくりが進められている。
- ・ 終末期の患者の看取りについては、自宅はもちろん、看護師のいる施設でも難しい状況がある。一方、県西地域の医療は、自己完結率が比較的高く、絶妙なバランスで保たれている。病床等の数値の議論だけでなく、施設に対する在宅医療や終末期に係る対策を行うことも重要。
- ・ 地域の福祉施設では医療との連携を密に行っており、看取りを行っていることが多いが、定員をほぼ満たしていることなどから緊急時の対応に難しさがある。
- ・ 県西地域の在宅医療に関する利用者の満足度は高い。これからの高齢社会を支えるには、在宅医療のさらなる充実が正しい方向性である。
- ・ 退院に向けて、在宅でのケアに携わる者が退院時のケースカンファレンスから関わることで、在宅医療がさらに充実するのではないか。
- ・ 地域の医療・介護の関係者の参加を得てよい議論が出来た。地域医療の必要量や求められる質、地域のネットワークにおいて患者がどう流れているかの分析等により、本日の話し合いを土台に連携を推進していきたい。

(4) 県西地区保健医療福祉推進会議での協議予定事項について

- ・ 公的医療機関 2025 プランの検証については、他の医療機関での代替可能性がある場合でもプランの見直しは容易ではないのではないか。地域の各医療機関の得意分野を伸ばして、機能の分担と連携を進めること等を引き続き議論していくことが必要。
- ・ 医師確保計画、外来医療計画についても、計画に係る数値を明示した上で十分な議論を踏まえることが必要。